

症例発表

## 耳管開放症

(漢方鍼医会本部) 今村光万

はじめに

耳管開放症とは中耳から鼻の奥につながる管が、通常は閉じているのに、開いたままになる病気である。代表的な症状として、耳がふさがれたような感じがし、自分の声が大きく反響して聞こえたり、自分の鼻呼吸の音が異常に大きく聞こえる、耳が痛いなどの症状が挙げられる。これら症状以外にも、フワフワと浮き上がって揺れるようなめまいが起こることもある。前かがみになったり、横になったりすると症状が緩和するのが特徴である。耳管が開いたままになる原因はよくわかっていないが、疲労、ストレス、体重減少などが、発症や悪化のきっかけになるという説もあり、患者は女性に多いとされている。確立された治療法はまだなく、漢方薬の加味帰脾湯(かみきひとう)の内服や、鼻腔から耳管への薬剤の注射、重症の場合には人工耳管を挿入する外科的治療などが試みられている。軽症例では数日から数週間で完治することもあるが、数年以上にわたって慢性に経過するケースも多い。このような確立された治療法がないとされている病気に対し、鍼灸治療が何処まで通用するのかアプローチしてみた。

症例

患者女性 24歳 水泳のインストラクター。

初診 2017年5月19日

主訴 右耳管開放症。耳が詰まる。鼓膜がばこばこ音がする。聞き取りにくい。

望診 身長164センチ 体重53キロ。

聞診 声が小さく、口数が少ない。

問診 現病歴 7年前から。

歌手の清水翔太の大ファンで、音楽をイヤホンやライブで大音量で聞き過ぎたのが原因と本人は推測している。その他の症状としては、左右側頸部の凝り。左右肩上部の凝り。左右足先に冷えを感じる。

既往歴なし

五味は、酸味を好み、苦味・甘味を好まない。食欲は少なく、やや便秘気味で2日に1回。生理周期は、40日に1回と生理不順である。

切診 肌は全体的に滑らか。右耳翳風付近に硬結。左右側頸部（胸鎖乳突筋周囲）や、肩上部の肩井周囲にゴム粘土状の硬結あり。左右足先が冷えている。

腹診 肝の見所陥下し最も虚。

脈状診 脈はやや固めで、沈、平、虚。

比較脈診 肝最も虚。

病証の経絡的弁別

左右側頸部の凝り、左右肩上部の凝り、酸味を好む、生理不順は、肝木経の変動。声が小さく、口数が少ない、苦味を好まないは心火経の変動。食欲は少なく、やや便秘気味、甘味を好まないは脾土経の変動。右耳管開放症、左右足先に冷えを感じるは腎水経の変動。

証決定 四診法を総合的に判断し、肝虚証とした。

治療側 症状が右にあり、女性であることから右にした。

予後の判定及び治療方針

耳管開放症が発症してから7年と長い時間苦しんでいるので、少し治癒までに時間がかかるかもしれないが、首の凝りや肩凝りもあり、足先が冷えている。これら症状を一つずつ改善していけば、耳管開放症の症状がなくなると判断し、良とした。

治療1回目 2017年5月19日

患者が鍼治療が始めてということだったので、鍼の効果を感じてもらおうと思い、最初に左右肩上部の硬結を和らげる為に、左右公孫、蠡溝に子午治療を行った。その後、首を動かしてもらい、肩上部の筋肉が少し柔らかくなったことを納得してもらい、本治法に入った。

本治法

右曲泉に営気の手法で補法。脈を確認すると肝の脈が12菽に収まる。陰経の脈に乱れが無いことと、陽経にも問題がないことを確認し、本治法を終了した。

標治法

腹部、関元辺りの虚に対し補法。右耳周囲の聴宮、角孫、翳風などの虚している部分に補法。先程の子午治療でとり切れなかった、左右側頸部の硬結に対し、左右側頸部の硬結と健康な部分との境目に3箇所補的散鍼。側頸部の硬結の中心に営気の手法。そして、左右

肩上部の硬結と健康な部分との境目に3箇所補的散鍼。肩上部の硬結の中心に營氣の手法。背部に左右差を整える為に、補的散鍼。左右飛揚に補法。百会に半米粒大のお灸を患者が温かさを感じるまで瀉的に施灸。右翳風に半米粒大のお灸を瀉的に3壮。中腕、水分に半米粒大の補的のお灸を5壮。左右三陰交に半米粒大の補的のお灸を5壮。右外関に半米粒大の瀉的のお灸を5壮。

脈が乱れていないことと、左右側頸部・肩上部の硬結が柔らかくなったことを確認して、1回目の治療を終わった。患者が帰る際、大きな音で音楽を聞かないようにと指示を出した。

治療2回目 5月25日

右耳が詰まる、鼓膜がぱこぱこ音がする、聞き取りにくいなどの症状が少し良くなったような気がする。治療法は、前回と同じ。

治療3回目 6月2日

右耳が詰まる、鼓膜がぱこぱこ音がする、聞き取りにくいなどの症状が大分良くなった。左右足先の冷えがなくなった。先日、清水翔太のライブに行ってきたが、今までになく快適に楽しめたと喜んでいて。治療法は、前回と同じ。

治療4回目 6月16日

食欲回復。治療法は、前回と同じ。今回歌手の加藤ミリヤのライブに行ってきたが、快適に楽しめた。

治療5回目 6月23日

左右側頸部の凝り、左右肩上部の凝りなくなる。今回、耳管開放症の症状をもう少し改善させようと思い、証を見直した。

腹診 腎の見所陥下し最も虚。

脈状診 脈はやや柔らかめで、沈、平、虚。

比較脈診 腎最も虚。

本治法は右陰谷に營氣の手法で補法。脈を確認すると腎の脈が15菽に収まる。陰経の脈に乱れが無いことと、陽経にも問題がないことを確認し、本治法を終了した。標治法は、1回目の治療とほぼ同様。子午治療は行わなかった。脈が乱れていないことを確認して、治療を終わった。

その後、6月30日、7月7日と治療。清水翔太のライブを今回も無事に聞いた。7月14日、7月21日、8月10日と、治療を続け、便秘症状がなくなり、8月18日、8月25日生理不順がなくなったとの報告を受け、耳管開放症の症状も全くなかったとの報告を受ける。9月1日、9月8日、9月15日、9月22日、9月29日、10月6日と、週1回様子を見ていたが、耳管開放症の症状が再発せず安定しているので、治療を打ち切った。

#### 考察

首の凝りや肩凝り、足先の冷えをなくすということを目指にしたのが良い結果に繋がったと思う。

#### 患者の感想

7年前くらいから耳に違和感があり、病院に行き「耳管開放症」と診断されました。しかし治療法が無いと言われ漢方薬を処方し、飲んでいたが全く効き目がありませんでした。ずっと付き合っていかなければいけないのだと諦めていた所、鍼灸が効果があるとネットで知り、おださが鍼灸院を尋ねました。2回目以降から耳の症状が減って来たことを実感し始めました。鍼灸を始めてから、大好きなライブに行って久々に新鮮な音を聴きながら楽しめたことが本当に嬉しかったです。

#### 質疑応答

**高橋** 耳がつまる耳管閉塞症について、僕はどちらかという陽明経の熱と判断しています。耳管開放症についての寒熱の判断は今村先生はどういったふうに解釈したらいでしょうか。

**今村** 冷えているか、熱いかについては下半身が冷えて頭部の方に熱がある感じがありました。

**高橋** 一般的な耳管閉塞症と耳管開放症ではどのように解釈をしたらいでしょうか。

**今村** あまり西洋医学的には考えず、本人が言っている症状と実際に触った感じでツボをとったので耳管閉塞症との違いについては考えずに治療しました。

**高橋** 僕もあまりその辺の違いがわからないのでどなたかわかるかたがいれば教えていただけるとありがたいです。

**二木** 開放症と閉塞症どちらもあまり変わらないのではないかと考えています。今回の症例にあったように、開放している時間帯もあれば閉塞している時間帯もあるので耳管炎というひとつのくりにして考えています。ほとんどの患者さんが「耳鳴りがしています」言ってきますが、そのうちの9割ぐらいは本当は頭鳴りです。そして、耳管炎です。本当に耳の中で鳴っているという状態です。耳の外で鳴っていたり、耳の上側でなっていたり、ひどい方だと百会の上で鳴っているなんて人もいます。寝る前の耳鳴りを消してくれと言われた場合、患者さんは耳鳴りがしているかどうか耳を澄ませて常に意識してしまうので本来鳴っていないものでも鳴っているような気がしてしまいます。なので寝る前などに聞こえる耳鳴りを消すというのは難しいですが、「普段の日常会話をする時などには聞こえない状態にすることはできます」と説明するようにしています。耳管炎という認識で、臨床はほとんどうまくいっています。ゴーゴーと風が吹くような音が鳴っていた人も回復した例があります。

**新井敏** ひとつお灸についての質問です。半米粒大のお灸を補的に、瀉的にという表現がありますが具体的にはどのように行いましたか。

**今村** 瀉的は硬めにひねり、補的はふんわりひねりました。あと百会に対してのお灸はちょっと熱さを感じるように瀉的に行いました。

**新井敏** 壮数による補瀉は行いましたか。

**今村** 翳風は3壮、百会は患者さんが気持ち良い暖かさを感じるまで行いました。壮数については資料にも記入しています。

**隅田** 最初に肝経と脾経に子午治療をやっていましたが、肩上部のコリだけでなく耳管開放症事態にも効果があったのではないかと思います。子午治療を何回続けてやったのかわからなかったのですが、最初以外にも何回目まで続けて治療を行いましたか。

**今村** 最初だけでなく症を変えるまでは続けて行いました。

**隅田** なぜ、症を変えたところでやめたのですか。

**今村** やめた理由は、肩上部の凝りがほとんど良くなったためです。

**隅田** わかりました。その時点で耳の症状も最初より変わっていましたか。

**今村** はい。本人も良くなったと言っていました。

**斉藤太** 耳管開放症とか低音性、感音性難聴というのは肝虚症のパターンが多いと思っています。耳のことなので最初に腎のことがきてしまいますが、特にこの沈脈の人、血虚性のある人、若い人の耳の障害というのは肝が多いなと思っています。いわゆる逆気とかです。

逆気でも腎の逆気ではなくて面載陽という逆気です。頭だけに陽気がこもってしまっているような貧血の逆気です。こういう状態の人に耳管開放症とか、低音性、感音性難聴とか耳の障害が多いと思っていますが、最終的によくなってくると腎虚に症が変わってきます。腎虚なのですが、腎虚の耳のものというのは大概是浮脈だと思ってます。逆気や虚熱が主で浮脈を沈めてあげると虚熱がよくなるという感覚なのですが、最後腎虚になって治療が終わっていきますが他に何か腎虚の所見というものはありましたか。

**今村** 足の冷えや耳の症状ということで腎を中心に治療をしようと思いました。それと、血の病というか肩上部などの筋肉の凝りがなくなったので肝から腎に変えました。

**新井康** 肩上部の肩井周囲のゴム粘土の硬結とありましたがどのようなイメージでどういった手法をおこないましたか。

**今村** ガチガチの石のようとか、骨のようというまでの硬さではないのですが、そこまで柔らかくもない感じです。感覚としてはガチガチな表面をさわって少し表面が動くかなという感じです。手法は、健康な部分と硬結部分との境目に鍼を硬結に向けて衛気のような浅い補法を行いました。そして、凝り中心に営気で深めにいれて引き上げるような感じで行いました。

**新井康** もうひとつ本会では脈状診、五臓脈診という表現をしますが比較脈診というのは五臓脈診ということでしょうか。

**今村** 五臓脈診のことです。五臓を比べた脈診のことを言っています。

**高尾** 盲人の先生の実感に一目置けるのですが、今村先生と同じ班になったときに補法をする時の様子があたかも気が見えているなというイメージがとても伝わってきます。その補っている時に気が至った感じというのは今村先生にはどのように感じていますか。

**今村** 鍼を刺して支えている押手にそこに何かがある感覚があります。何か来たものをそのままにすると、ちょっと収まる感覚があります。その時に左右圧をしっかり閉めて鍼を抜きます。

**高尾** その何か来るものがなかった場合に鍼を抜くことはありますか。

**今村** それはありません。何も来なければそのまま待つか、もう少し鍼をいれたり来るところを探します。

**高尾** そうすると、補った後の体表も脈も良くなっているという機序があるんですね。

**今村** そうです。